

○議長 小田 武人君

次に、8 番、田島議員の一般質問を許します。田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

8 番、田島憲道です。一般質問をやらせていただきます。よろしくお願ひします。

ちょっと、きょうは大変体調が悪いです。多分、井上課長が猫の質問だけはやめてくれと、ずっと、大分前から言われていたのですが。それで多分、猫のたたりか何かと思いますが、お聞き苦しい点がありましたら、御了解いただきたいと思ひます。

それですね、一般質問通告書どおりにやっています。1 の飼い主のいない猫の被害対策についてです。まずは皆さん「のるまえに#猫バンバン」御存知ですか。日産車が、日産ですね、2015 年にこれ始めて、ステッカーを配っております。私、実はこれ経験あるんですよ。迎えに来た友達の車がですね、「やっちゃった。」と言うんですよ。それでボンネット開けたらすごい臭いがしまして、いまだに覚えています。これすごく、本当、それでもう日産に電話したらですね、日産に持って行って、高圧洗車で洗浄してもらったんですけど。よく日産では、持ち込みが、こういうことよくあつてるといふことなんで。それからすぐ、こういうキャンペーンが始まったんですね。猫バンバン、猫バンバン。私、今、本当この冬の時期はしなくていいですよ。どっかで猫、寝てるんでしょうか、見かけないんですよ。これからですね、本当、花粉のこの時期になると、猫がやっぱりいろいろなところでお見かけします。そこで、こういう不幸な猫をつくらぬ、ふやさないために、ちょっと私はきょう、いろいろ一般質問で取り上げていこうと思ひつてます。またですね、我々の身の回りに猫、たくさんいますし、いろいろなキャラクターありますよね。キティちゃんとかネコバス、僕の息子が今大好きな妖怪ウォッチのジバニャンですか。昔はやっぱりドラえもんですよ。猫とどのように共存していくかといふことで、問題提起といふことで一般質問させていただきます。

では、今も続くペットブームであり、その市場は1兆4,000 億円を超えています。しかし近年、犬の飼育数、987万8,000 頭、平成28 年調べです。減少傾向にあるにもかかわらず、ペットとして飼われている猫は、984万7,000 頭。これは横ばいでありまして、外猫、飼い主のいない猫を含むと、その数は犬を上回っている状況です。空前の猫ブームの陰では、深刻な問題も起きています。

①飼い主のいない猫を町内でも見かけますが、現状をどのように把握し、またその対応策をお尋ねいたします。

○議長 小田 武人君

執行部の答弁を求めます。環境住宅課長。

○環境住宅課長 井上 康治君

猫は犬と違って法律で登録が義務づけられていないため、飼い主がいない猫だけではなく、飼い猫さえも把握はできておりません。また、昔から猫の飼育方法として、外へ自由に外出できる状態をつくり、放し飼いをしている方が多いと思います。そのため、町では飼い猫に迷子札をつける、室内で飼育をなどの啓発を行っていますが、町内で見かける猫が飼い猫なのか、飼い主がいない猫なのか区別することも困難な状況です。

次に、猫の苦情相談についてですが、被毛の飛散や糞尿の被害、発情期の鳴き声、庭を荒らされるなど、さまざまあります。しかしながら、猫は愛護動物であるため、むやみに捕獲し処分することはできません。現状としては、飼い主がいない猫に餌を与えている人がいるために、猫が集まり、近辺に被害を与えているようです。飼い主のいない猫をこれ以上ふやさないために、餌を与えている人に餌やりをしないように話をすることや、啓発看板を設置するなどの対応しかできていない状況です。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

ありがとうございます。これ、猫、本当取り扱いが難しいんですが。日本人と猫の関係の始まりというと、約 1, 400 年前と飛鳥時代ですか。最近では弥生時代からもう猫が存在したんじゃないかと言われております。でですね、中国からの仏教の経典を守るために、猫は仏教の経典と一緒にですね、セットで持ち込まれたのではないかとと言われております。そしてまた、農耕民族である私たち日本人はですね、瑞穂の国の日本ということで、猫はとても役に立つと。これはやっぱり米を食い荒らすですね、ネズミ、我々にとっては、当時は天敵だったんです。猫はそれを駆除、駆逐してくれるということで、魔除けの扱いだということで資料 2 にこれ、御覧ください。招き猫、右手を挙げているとお金を招く、左手を挙げている猫はお客を招くと。まあ大阪とか行くと両方、両手を挙げている猫さんがいますね。商売繁盛ということで、猫をあがめている私たちであります。

例えばですね、小倉の藍島。最近よくテレビで取り上げています。福岡県でもう一つ相島があるんですけど。猫の島と猫パラダイス、猫天国だと言われている島なんです。ここはですね、人口約 280 人、猫も同数住んでいるというか、猫もいるそうなんです。

昔からですね、漁船に穴をあけるネズミを捕獲するというので、猫を大事にしてきております。これ、浜崎とか柏原もそうなんです。こういう文化があります。テレビでも紹介されていますし、最近ではですね、外国人の観光客も藍島に訪れているということなんです。町内に実は藍島に赴任されていた、1 年半ぐらい前まで藍島にいた小学校の先生がいるんですよ。話を聞

くと、本当におもしろい話をいっぱいしてくれるんですね。本当、猫好きにはたまらないところだと言ってますね。その先生はもう普段でも猫カフェに行ったりとかするようなことを聞いておったりするんですが。住民と猫がですね、共生しているという特殊なケース、ここは島なんですよ。まあしかし、先ほど課長からの説明がありましたけど、町内ではごみをあさったりですね、糞尿被害。やっぱりひどいですよね。そして突然飛び出してきたりするんですよ。車を運転しているとよく見かけます。何度もひきかけたりとかいうことを僕もありました。そんな相談も多々あってですね、車にひかれる猫を、僕は死んでしまった猫をですね、五、六回役場に電話したことがあります。最近でも、何カ月か前か1回電話をしまして、石橋さんがちょっと拾いにきてくれたんですが。

これですね、不慮の事故で死んでしまった猫、これはどれくらいの数が芦屋町で引き取っていらっしゃるんですか。死んだ猫ですね。ここ3年ぐらいわかれば。よろしくお願いします。質問です。

○議長 小田 武人君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 井上 康治君

猫が車にはねられて、道路上にあるのを役場に連絡があって、引き取りに行っているわけですが、3年前と言われていたんですが、2年前の数値しかありませんので申しわけありません。

前年度が140匹、今年度が今現在で110匹ほど連絡があり、引き取りには行っている状況です。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8番 田島 憲道君

前年度140匹、ことしが110匹。大変な数だと僕は思います。ちょっと資料3を見ていただきたいと思います。これはですね、雌猫がふえていくイメージなんです。1年に2、3回出産するというんですね。最近は食べ物がいいせいかですね、4回、5回も出産、2カ月に一遍ぐらい出産する猫もいるというんですよ。これで、見てみますと1回の出産で4匹から6匹生まれます。1回出産するとですね、6カ月後にはもう出産可能。2カ月で産むような猫も出てきております。それで、これは雌だけの計算でやっているんですが、もう隣の半年後ですね、最初の雌がまた子供を産んでということで、図に表していますけど、1年後には27頭、これがですね、3年後に2,187頭、すさまじい数になっちゃうんですよ。これ、ネズミ算というんですけど、これに関しては、猫の猫算ですよ。先ほども言いましたけど、これはもう雌のみの計算で書い

平成 29 年第 1 回定例会（田島憲道議員一般質問）

ていますから、これ、雄を入れるとすごい数になっちゃいます。しかし、これが町内でこんな状況になってるかと言われたら、違うんですね。やっぱり猫も寿命がありまして、飼い猫をちゃんとですね、家の中で飼っている猫はですね、15年ぐらい長生きします。そして、野良猫という扱いですね、外猫とか言ったりもしますが、これは飼い主はいないが、人間生活に密着している猫で、これは5年から7年だそうです。完璧なですね、野生化した猫、どんな天敵、トビに襲われたりとか何とかしたりするので、野生化した猫は3年から5年の寿命と言われてはいますが。ほとんど小さい子供の時にですね、亡くなったりしている状況です。

それで、全国ではですね、毎年減ってきてはいますが、年間約10万匹の猫が殺処分、殺処分ですよ、されていると言います。その引き取りの内訳は16%、1万4,061頭が飼い主からの持ち込みだということですね。これはもう飼えなくなったとか、手に負えなくなったとか。子猫が五、六匹生まれて、もうどうしようもなく、引き取り手がないということで持ち込むということですが。芦屋町では、このように役場に生きた猫を持ち込まれるケースはありますか。質問です。

○議長 小田 武人君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 井上 康治君

役場に持ち込まれている猫というのがですね、今現在、生後91日以内、3カ月以内の猫は引き取って、保健所のほうに取りに来るようになっていきます。これの観点ですけど、子猫の持ち込みについては、保護するという観点になります。親が見当たらずに子猫だけがいるので、保護して保健所のほうに行くと。その後なんですけど、保健所のほうに持っていくと、子猫は愛護団体とか引き取ってですね、飼い主を見つけてやっているような感じになっています。親猫になるとなかなか飼い主が見つからないです。子猫だとかわいいので、かなり見つかったりするような状況という話を聞いております。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8番 田島 憲道君

大変勉強になりました。いろいろなことがちょっとわかってきたような気がします。

通告2のですね——②の飼い主のいない猫の避妊・去勢手術の補助金事業への理解と取り組みをお尋ねいたします。

○議長 小田 武人君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 井上 康治君

福岡県では、平成 26 年度から地域猫活動支援事業を行っています。これは、飼い主のいない猫の過剰繁殖や糞尿による被害等を防止するため、市町村の支援を受け、地域住民や活動者が主体となって行う不妊去勢手術の実施や餌の管理、排泄物の処理等の活動をいいます。この活動は、不妊去勢手術による一代限りの飼養や新しい飼い主探しにより、将来的に飼い主のいない猫をなくしていくことを目的とします。現在、福岡県では、12 の自治体で対象地域が指定されています。芦屋町も管轄区域である宗像・遠賀保健所管内では、宗像市で地域猫活動が行われています。

また、県が行う地域猫活動とは別に各市町単独事業として、猫の避妊・去勢手術補助金事業を行っている自治体も 7 市町村あります。

避妊・去勢手術については、議員もおっしゃいましたが、猫は 1 年間に二、三回出産を行い、1 度に五、六匹の子猫を産むと言いますので、これ以上ふやさないためには必要な措置と考えますが、地域猫活動を行うには、猫が好きな人と嫌いな人がいるために、地域住民の合意を得ることが難しいと言われています。また、ただの餌やり活動となってしまうと、地域住民との新たなトラブルとなったり、他の地域からの捨て猫が集まってくるなど、餌、糞の管理を怠ったりの問題などが懸念されるために、現時点では地域猫活動をしたいという、地域住民や活動者からの要望は上がってはいない状況となっております。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

この地域猫活動、実は僕はテレビです、福岡市の取り組みを拝見しました。これ、新しい地域コミュニティの活動の一環になり得るのではということ、ちょっと資料 4 をつくりました。芦屋町ではそういう要望が上がってないと言われていたのですが、まず、多分、町民の方、知らない方も多いと思うんですよ。これはですね、ボランティア団体ですよ。そういう登録もいろいろ難しいと聞きましたが、聞いておりますが。地域の猫が住んでいる、猫がいるところに女性の方たちがですね、袋を持って、スコップを持って、餌を持ってとか回って、回りながらですね、防犯対策にもなっているし、子供の見守りとか、声かけだとかごみを拾ったりとかですね。あと、独居老人のところに声をかけたりとかしているんですね。こういうですね、横だとか縦だとかクロスだとか、そういう新しいコミュニティ、きのうもいろいろ松岡議員、刀根議員からも自治区担当のことについて、コミュニティの推進ということで質問があっていましたが。いろいろな方法も今、あるんですよ。これが所管の担当課、全ての皆さんが参考にしていただけたらと思います。

ちょっとその4のところの「おうちへかえろう」というプロジェクト。TNRという取り組みがあります。これはですね、去勢手術をした猫の右耳を見てください。確かこれは右耳が雄だとか左耳が雌だとかそういう分け方しているんですけれど。カットされていますよね。これが桜の花びらに似ているということで、「さくらねこ」とかいう活動でも聞いたことありますが、資料5を御覧ください。これあすなろですね。これ先ほどの獣医師会、獣医師会がこのような取り組みをやっています、猫の避妊手術、去勢手術をするのに雌は3万くらい。安いところは1万とかいろいろあるそうなんです。約3万円かかる。雄で8,000円から1万5,000円ぐらいかかるということですが、これに対してですね、獣医師会から補助金が、補助金を出すよと。雌1万500円に雄に対して5,250円出してくれるということなんです。しかし、これはですね、宗像、福岡とか、筑豊で田川地区とかですね、リストがあつてですね、そこに書いていますね、下記のモデル地区と。遠賀郡、この辺はその獣医師からのそういうものが行き届かないようなことになっているんです。それで町内でもですね、猫好きの人たちがいて、捨て猫、外猫ですね、それを見つけて救い上げては、自腹で手術した、させているという方が正門町ですかね、そういう方もいます。それとあるお宅、というか独り者の男の人なんですけど、何回か相談に乗ったことがあるんですけど、猫18匹いるんですよ。これ多分、恐らく、大変な多頭飼いの何と言うんですかね、よくそういうケースも出ているということも聞きます。どうしようもなくなってしまつてですね、家が、もうヒッチャンガッチャンなっている家が町内に1カ所あります。その家に行くと、大変な臭いでたまらなくてですね、その方、もういろいろな相談に乗るからですね、店で会うようにしたら、今度はお店の中がすごい臭いになってしまっている状況があるんですよ。そういったことでですね、何とか、そういう活動、地域猫やら、そういう去勢手術の支援事業あります。ふるさと納税とかですね、そういう動物愛護に関心ある人がそういう意味で使ってくださいという寄附とかもあると聞いておりますが、そのような啓蒙を今やっているのでしょうか。やっていないならぜひやってほしい。お尋ねします。

○議長 小田 武人君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 井上 康治君

この地域猫活動に伴う啓発は、今現在、行ってはいません。なぜ行ってなかったかという理由なんですけど、状況の確認等をしないと、まず、いけないということが一つありまして、地域の、先ほども言いましたように、基本は、これ地域が理解を得てやれるかやれないかだと思うんですよ。ちょっと例を挙げると、今、芦屋町で猫がたくさんいるところと言えば、洞山あたりとか柏原公園あたりに10頭とか20頭あたり集まって来ている状態になっております。その方が、地域の方が餌をやっているなら地域猫活動って、結構スムーズに始まるかもしれないですけど、

その場所はですね、町外からの人が、猫好きの人が来て、餌を与えて餌の容器はそのまま置きっぱなし。餌だけやって帰っている。猫はそこにいっぱい集まってきて、その辺に糞や尿、またけんかして鳴き声がうるさいとか、そういう地域に迷惑をかけている状況になっているんですよ。そういうこともあって、まず地域の理解が必要ということもあるので、まずそういう苦情が上がってきて、活動者、餌をやっている人と話をして、地域の人とつなげるということが、これが一番じゃないかと思っていましたので、啓発しておりませんでした。でも、これを一般質問で上げていただいて、いろいろ勉強させていただくことですね、先ほど言われた、あすなろ猫は地域外なんですけど、さくらのどうぶつ基金というのがあります、これが行政枠と一般枠、また多頭飼育枠とあって、いろいろ3つぐらいの枠があって、それで応募ができるようになっておりますので、こういう補助金もあるんだよというのは、今後やっていきたいなと思っています。私もテレビで、多頭飼育で崩壊しているのをニュースで見たことがあるんですけど、その場合はですね、前、猫を飼っていた人が不妊手術をしたら、猫が死んじゃった。病気で死にやすくなった。だからもう不妊手術はしたくないということで、猫を飼っていたらどんどん、どんどん膨れて、さっき言われた猫算みたいな形で、家の中のふすまとかもビリビリ、柱も猫傷がいっぱいあるとかいう状況で、このさくらの会ですかね、動物基金のほうで不妊手術をしている映像が流れていましたので、そういうのがあるんだというのは今後、啓発、町のホームページとか広報などでPRしたいと思っております。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8番 田島 憲道君

ぜひ、そのような啓蒙活動はやっぱり必要だと思うので、町民の方がいろいろ知らないことがあるので、ぜひ、その広報なのでお知らせいただきたいと思います。そしてちょっと論点がずれるかもしれないですけど、ある事例をちょっと御紹介いたします。

世界遺産を目指している奄美群島です。これ、僕もちょっとテレビで、NHKで見たんですけど。奄美群島に、そこだけしか生息しない日本の固有種のアミノクロウサギがいます。これはですね、地元のマングースと野猫の、野猫ですね。野生化した猫の食害によって、絶滅の危機に瀕しているというんですよ。現在、このクロウサギが200頭確認されていますが、これに対してですね、日本哺乳類学会は、2015年1月に野猫を緊急に捕獲して排除してくれと国と鹿児島県に要望しました。今、なぜこのような動きがあるかというと、世界遺産を目指していると。2017年、ことし、どうやらそういう方向に奄美大島がなるそうなんです。一方ではですね、奄美群島の徳之島では、島全島の野猫が3,000頭いると。これを去勢手術の、先ほどのTN

平成 29 年第 1 回定例会（田島憲道議員一般質問）

R活動を推進し、野生猫の数を減らそうという、こういうプロジェクトを起こしております。これに対して資金はですね、公益財団法人動物基金、先ほど紹介があったような、ここの協力を得ているそうなんです。でもですね、野猫を減らしていく、不妊手術をして減っていくのには3年から5年とか、そういう時間がかかるので、これは絶滅、希少な野生動物ですよね。クロウサギの絶滅を防ぐためにはTNRではなくて、捕獲から排除という議論もこういった問題もあります。冒頭から言っておりますが、これは大変難しい問題であります。住民相談、皆さん受けると思いますけど、所管の皆さんとよく話をしてですね、啓蒙活動しっかりやっていただきたいと思えます。

次にですね、質問移ります。

通告2の観光拠点であるマリンテラスの現状について、通告書を読み上げて質問させていただきます。

政府は、観光先進国を目指すという目標を掲げ、2020年には、訪日外国人旅行者を4,000万、更に2030年には6,000万人に拡大することを目指し、地方創生の切り札、安倍内閣の成長戦略の柱として、観光の潜在的な力に対する期待と注目が高まっています。その観光先進国の実現には、地方自治体が果たす役割が非常に大きく、受け入れ環境の整備が急がれています。芦屋町には、オンリーワンの芦屋釜や白砂の海岸線などの地域資源に加え、今後、宿泊施設が不足すると予想される北九州圏で、受け皿と成り得る潜在的な強みがある宿泊施設であると思えます。

まずはですね、(2)、これから質問させてください。質疑の場で誰か質問されるかなと思ったら、誰も質問されなかったの、まずは②の、僕がやります。②のですね、新年度予算に、大型の改修工事が計上されていますが、その概要をお尋ねします。

○議長 小田 武人君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 入江 真二君

新年度に予定している改修工事ですけれども、マリンテラスの空調設備、これはセントラル方式からビルマルチ方式に更新します。それと大浴場の循環ろ過装置及び全館の給湯設備の配管の更新のための工事を予定しております。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8番 田島 憲道君

今、横文字がちょろちょろ出たんですが。詳しくちょっと。30部屋の部屋に個別にクーラー

平成 29 年第 1 回定例会（田島憲道議員一般質問）

をつけるということですね。すみませんがよろしく申し上げます。

○議長 小田 武人君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 入江 真二君

現在は全館のエアコン、空調をするために地下にボイラーとかがありまして、その温めた空気とか、冷たくした空気を全室に送る、そういうようなエアコンのシステムになっておりますけれども、これを今後、個別に、自宅にあるような、ルームエアコンのような形に全館更新して、それぞれの部屋で電源を入れたり、温度調整をしたりというようなことで、省エネにもつながるような設備でございます。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

もうこの空調問題はですね、ずっと要望が上がっていたと思うんですよ。それで僕は今年度ですね、1年前の3月議会の場で早合点したんですよ。990万円の実施計画ができた。新しい業者になるこの節目で単純に計算したんですよ。30部屋しかないですよ。30万円の空調が30カ所つく。30万円高いなど。狭いシングルルームやら狭い部屋じゃないですか。どうみてもエアコンは10万以下で買えたりするけど。新しい業者にとってはこれは本当いいことだなど思ったら、実はこれ実施計画であって、その後、今回2億ですか。そういう工事が入るということで、これやっぱり民間の考えとは違うなど。我々視察に行くとやっぱり地方では4,000円ぐらいのビジネスホテルに泊まって、東京ではやっぱり高い。今は外国人宿泊者が多いから、何でもない部屋に1万2,000円とか1万5,000円払ったりとかしていますけど。そういう部屋を見ると、外付けのエアコンで、室外機はもうベランダについてあるような、本当簡素な部屋を。そういったとこばかりですよ。エアコンなんて10万もしないような感じなんです。民間の考え方とお役人さんとはちょっと、いろいろなシステムが違うからですね。いろいろなことは言えませんが、これいつ仕事に入るのか、工事に入るのか、工期はどうなるのか。そしてですね、営業補償、休業補償ですか。家賃の減額などあるのか。前回2年前ですかね、そういうことがあったのでお聞きします。質問です。

○議長 小田 武人君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 入江 真二君

この改修工事の実施時期でございますけれども、年明け1月から3月末までの約3カ月間を予

平成 29 年第 1 回定例会（田島憲道議員一般質問）

定しております。その間、全館の給湯設備の配管改修、空調設備並びにそれに伴う建築工事とか、電気工事がありますので休館となります。このため、休館に伴う補償については、指定管理者であるグリーンハウスさんと内容等について双方で協議を行い、決定することと考えております。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

恐らくそうなるだろうと思ったんですよ。で、ですね、僕はマリントラスにちょっといろいろなことがあって、2カ月間住んだことがあるんですよ。そのときにいろいろなことが見えてきたんですよ。これはやっぱり指定管理者も大変な思いをしておるなと思って、1年に一遍ぐらひはマリントラスのこと一般質問で取り上げてきておりますが。

例えばですね、Wi-Fiの整備、視察に行ったときなんか、夜、何もすることなかったら、僕なんかWi-Fiを使って調べ物したりとか、次の日の視察先ですね。とか、もう何もすることがなかったら、ネットフリックス見たりとかしているんですが。

芦屋町はマリントラス、もう五、六年ぐらい前からそんな状況がなくてですね、僕が言ってやっとならびの前になったらWi-Fiができますよとかいうことなんですよ。それとですね、サウナは最近は行っていませんが、よく行っていた時があって、やっぱりテレビつけてくれないかなど。それかラジオ放送でも流してくれという話もあっていて、2年前の改修工事の時にそういう相談をしたんです。サウナのお客さんの中にやっぱり電気店やら電気工事店の人がいて、そんな大変な金額はかかることじゃないんだぞと。20万、30万ぐらいでできるんじゃないかって。テレビだって3万円ぐらいじゃないかという話があったんですが。こういう予算を組み合わせなきゃいけないとか何とかいうことでできなかったんですが、今回、この3カ月間の間にそういった設備のほうに目を向けるようなことは考えていらっしゃるでしょうか。質問です。

○議長 小田 武人君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 入江 真二君

先ほども申しましたけれども、今回の工事の中では、そのサウナのテレビの設備というのは考えておりません。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

平成 29 年第 1 回定例会（田島憲道議員一般質問）

残念であります。また後ほどW i - F i に関しては取り扱いたいと思いますので、そちらでお願いします。

それとですね、2億の工事が入るとやっぱり資産価値というのが上がったと思うんですよ。普通でしたら、漁師のおじさんでも漁船を買って3,000万、4,000万、それから税金がかかたりしますね。償却資産税というのが発生したりするのですが。こういった場合ですね、これだけの投資をしてあげるの、グリーンハウスさんに対しては、今のままの家賃のままなのではないでしょうか。質問です。

○議長 小田 武人君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 入江 真二君

今のグリーンハウスさんとの指定管理の契約、これは昨年の4月から5年間になっております。その中で毎年の納入金は2,000万円、固定の2,000万円というふうになっておりますので、この5年間は据え置きということで考えております。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8番 田島 憲道君

2億というお金は、これは競艇場からいただくということです。すごいですよね、競艇場さん。2億をポンと出してくれると。打ち出の小槌が始まったのかなと思ったりもしますが。本当これはよそでは考えられないことですよ。

それでですね、仕方がないので②にいきますね。

今年度より、新たな指定管理事業者となり、新生マリントラスとして再再再スタートを切りましたが、この再再スタートというのは、マリントラスが新しくできたときに、休暇村、志賀島とかの国民休暇村サービスセンターですかね、あそこがやって10年ぐらいやって、その後、マーチャント・バンカーズになって、今回グリーンハウスということなんですが、何がどのように変わったのかお尋ねします。

○議長 小田 武人君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 入江 真二君

昨年4月に指定管理者がマーチャント・バンカーズ株式会社からグリーンハウスに変わりました。これに伴って料理長、支配人及び副支配人が新たに配置され、新体制でのスタートとなっております。何がどのように変わったのかとの質問ですので、まず部門に分けて御説明いたしま

す。

まず、レストラン部門でございます。昼食メニューには、サラダ、デザート、ソフトドリンク等のハーフバイキングをランチメニューに追加しております。また、季節のフェアとして月がわりのメニュー、平日のランチに日が変わりメニュー等を追加しております。また、夕食メニューの充実として、三種類の洋食メニューを始めております。

また、宴会メニューには、忘年会、新年会プラン、歓送迎会プラン、慶事プラン等を新しく企画して、小イベントを行っておりますけれども、ドクターフィッシュとって、足の角質をとるドクターフィッシュ体験、ヨーヨー釣りや綿あめ等のイベントも始めております。

また、管理部門に関してはフロント、レストラン、調理の三部門で、それぞれで部門会議や朝礼の実施、衛生講習やカスタマー講習を開催するなど、従業員の意識改革にも取り組んでおります。

館内の設備については、総合ビルメンテナンスの専門業者である太平ビルサービスに委託管理を行うなど、新たな取り組みを行っております。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

去年 3 月に、3 月だったか、もうちょっと忘れましたが、一般質問でグリーンハウスさんの経営理念とかですね、経営戦略はどのようになるのかと聞きました。そのときに井上課長ですね、当時のが、御説明したところをちょっと読み上げますと、指定管理の応募する際に、現地見学やら実際に宿泊して施設内を見た。客室から共用部分に至る部分において、清掃やメンテナンスが不十分という印象を受けた。利用者にとっては清潔感が優先度が一番高く、不快な思いをされているのではないかと。これではなかなか利用していただくことはできないと言われております。そしてですね、従業員の笑顔や気のきいた接客があまりない。教育研修を十分に行われていないんだと感じたそうです。現在の運営は、当時の運営はですね、できるだけコストを抑えた運営となっております。本来実施しなければならない管理やサービスの提供が行われていないんじゃないかと思われたということです。それで顧客の満足度は下がり、利用者数の減少に歯どめがかからず、施設も経年以上劣化して、施設自体の寿命を縮めることにつながっていると分析しているということなんですよ。そしてですね、グリーンハウスさんは 10 年後、20 年後も利用者に愛される施設運営に取り組むと言っております。

そういったことを踏まえながらですね、例えば、太平サービスさんというところが入っております。これが事務室まで用意して 1 人とか 2 人の人間を入れておると思うんですが。これ売り上

平成 29 年第 1 回定例会（田島憲道議員一般質問）

げに対して、やはり 1 人、2 人の人間が来ているということは年間 1, 200 万と 1, 500 万くらい支払っているような気もするんですが。今年度、今年の売り上げ予想ですね。もう間もなく、出ていると思うんですけど。前回、マーチャント・バンカーズさんの過去の売り上げ、二、三年でいいです。それと今年度のグリーンハウスさんの売り上げをちょっとわかるなら教えてください。

○議長 小田 武人君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 入江 真二君

グリーンハウスが私どもに報告しておる売り上げの予定でございますけれども、平成 28 年度が 2 億 9, 651 万 7, 000 円、29 年度が 3 億 4 28 万 9, 000 円、30 年度が 3 億 1, 521 万 1, 000 円となっております。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

当初ですね、国民休暇村のときには 5 億、6 億くらいあったのではないかと思いますよ。それがだんだん、だんだん落ちてきているということですよ。やはり何か、てこ入れが必要であると思うんですよ。そしてですね、芦屋町もまち・ひと・しごとで掲げております、芦屋らしいおもてなしって何なのかなと僕は思います。今、英語、韓国語、中国語とかにですね、対応できているのかといたら、多分できていないと思います。

ちょっと資料 11 ですね、これは以前も出しました SWOT 分析です。マーケティングツールの 1 つなんです。これは内部要因の芦屋町の武器という強みとですね、外部要因のチャンスですよ。これが重なるところを伸ばしていけばいいのではないかとということなんです。こういった分析をして、それからセグメントに分けて芦屋町、マリントラスのですね、顧客はどのようにターゲットを絞るかとか、ポジショニングとかいう方向につながっていくと思うんですよ。

きのうですね、ランチをマリントラスに行きました。満席でちょっと並びました。大変にぎわっています。お客さんを見るとですね、やっぱり施設のグループホームか何かの花見やら、何か行った帰りとか、そういうコースになっていますね。前も言いましたけど。そういう車椅子を押した方たちとかの利用者が大変多くて、全然変わってないなあと。グルメ通の人が来ているということではないんですよ。それで眠れる旅行者を発掘しているのだろうかとは私は言いたいですよ。

地方創生で、その絡みでいろいろ調べてみると、移住ツアーを開催しているところもあります。

平成 29 年第 1 回定例会（田島憲道議員一般質問）

自然環境に優れた地方に移住するという田舎回帰はですね、早くから言われていますし、着実にこれも広がっています。そしてまた医療ツーリズムというのがあります。これは中央病院が新しくなりますよね。それでこれ、海外の中国とかですね、台湾とか香港のお金持ちの人がですね、日本でやっぱり医療、検査やら手術とかあればですね、そういう医療を、病院に行くことを兼ねておいしいもの食べに来るとかですね、観光するとか医療ツーリズムというの、今、やっぱりインバウンドの中で普及しているというか、着実にこれも、こういうお客様いますし、先ほども言いましたけども、バリアーフリーツーリズム。今、マリンテラスでは日帰り旅行がちょっと多いと聞いておりますね。これをですね、バリアフリー化して、1泊でも2泊でも泊まってもらうということも大切じゃないかなと思うんですよ。

私はですね、地方創生は、イコール仕事創生だと思っています。山本幸三大臣はですね、地方創生の大任は、まち・ひと・しごと平均所得を上げて、若者が高所得と安定した雇用を得ることが大事だと言っております。働く場所を確保し、仕事人が人を呼び、人が仕事を呼ぶ。好循環を加速させていく、これがですね、私は地方創生だと理解しております。

現在ですね、マリンテラスは、聞いたところ料理長のみが正社員ということで、支配人、副支配人は前のマーチャントのときの支配人ですが、そういった方たちも皆さん正社員ではないということを知って、びっくりして驚いております。

質問通告（3）、ことし末にスペースワールドが閉鎖となります。報道で聞きましたが、従来からの大口客である修学旅行生の宿泊、これが減るんじゃないかということは、もう予想されていますが、考えられますが、影響は出ないのかお尋ねいたします。

○議長 小田 武人君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 入江 真二君

マリンテラスあしやには、広島、山口方面の小学校から多くの修学旅行生を受け入れております。平成 28 年度実績では 16 校 1,331 名、平成 29 年度、来年度の予定では 18 校 1,321 名となっております。これは全体の利用客の約 7% を占めております。これらの修学旅行の行き先としてスペースワールドがございまして、スペースワールドが閉鎖となった場合には、今の段階ですけれども、広島県の多くの小学校は、旅行先として北九州地方を選択しないというような考え方をしておるようです。それと、山口県の小学校では、北九州市のいのちのたび博物館、佐賀県の吉野ヶ里遺跡については、今後も旅行先として考えているということですので、引き続き宿泊先としての利用が見込めることが考えられますけれども、スペースワールドの閉鎖に伴う宿泊人数の減少は避けられない状況ではないかと考えております。

このため、グリーンハウスでは、鹿児島県や長崎県など他県の小学校に、修学旅行に関する営

業を強化しておりますし、ほかにも田島議員がおっしゃったように、旅行会社が実施するツアーへの売り込みなどの営業活動も強化しております。それと 3 月 1 日の読売新聞でございますけれども、北九州市内の財界関係者らが「北九州市のテーマパーク存続及び誘致を願う会」を設立したというニュースが流れておりました。今後 2 カ月間で 10 万人の署名を集め、市に提出すると報道されておりました。このため、これらの動きによって北九州市がこのスペースワールドに対してどのような対応をとるのかということも注視していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

ありがとうございます。

今、マリンテラスは日帰りのお客さんやら、後は近場ですね、6 割くらいの宿泊客の 6 割は近郊からですね、夫婦二人とかそういうふうな形で、遠くには行けないので、60、70 以上の方が旅行で、日帰り旅行で利用しているということを聞いておりますが。

インバウンドですね、訪日外国人数、ことしのですね、2,400 万人を超えたと言っています。これはですね、2020 年には倍にふやすと。4,000 万、政府が目標にしています。2030 年には 6,000 万の目標を立てました。それでですね、国交省はクルーズ船でのお客さんを年 500 万人にふやす目標を掲げていますが。

北九州市ですね、次年度予算にクルーズ船誘致に 1 億計上しました。ことしですね、今年度はひびきコンテナターミナルに 5 隻が入港しております。黒崎の商店街に連れて行ったりとか、したと聞きました。次年度ですね、2017 年度がアジア最大級の 16 万トンを含め、約 40 隻にふえると言っております。先ほどの 1 億ですが、これは警備員の配置やシャトルバスの運行、船会社のセールスに充てられるということです。北九州市はですね、積極的に外国人観光客を取り込もうとしています。去年も小倉城のライトアップやら何やらにお金を入れましたが、この小倉城周辺整備に 6 億 3,200 万円を計上します。熊本城がですね、今、ああいう状況じゃないですか。福岡県で天守閣があるというお城は小倉城なんですよ。

それで、実は私のところでカレーとかハンバーガーをつくっていた若い青年がいますが、彼がキッチンカーという軽トラにですね、調理できるようなものをつくって小倉城の麓で、小倉城のところで店を出しているんですが、もうお客さんの全員が韓国人やら中国人で、メニューをそういうふうなものに変えたというんですよ。これはですね、本当に北九州も努力している成果が上がってきていると思うんですね。北九州空港にもですね、16 年度 1.2 倍の 7 億 3,800 万を計上しています。今、報道でも御存じだと思いますけど、釜山の往復で、1 万 3,000 円ぐ

らいで来るんですよ。

皆さん御存知だと思いますけど、僕は一昨年、香港に行ったときに、一風堂のラーメンを食べました。800円とか1,000円しますよね、博多でも。それは香港では、2,500円なんですよ。上海では2,000円。実はですね、週末、家族で香港やら上海で13時間かけて上海とか香港に出てきて、家族でご飯を食べたりするお金があると日本に来たほうが安上がりだと。そしてお土産を買って帰るとというのが今までのインバウンドでした。

三菱総合研究所の試算では、2020年の4,000万の訪日客のうち、4割が中国人になると言っております。訪日回数を重ねるにつれ、サービスや娯楽に支出する割合がふえてくる。日本に旅行に来ただけでなく、美容院や居酒屋など日本を体験することが目的になると言っております。政府は2020年にインバウンド消費は8兆円という目標を立てておりますが、そのインバウンド消費がモノからコト、サービスに最近は変わってきているんですよ。コト消費と言われておりますが、これですね、こういう戦略的なマーケティングを通じて、ニーズをつかんでいかなければいけないと思います。

今、芦屋町はまち・ひと・しごとではですね、体験型、着地型観光を推進するようですが。例えば座禅。我々は、全く今はしないですが、これ外国人を連れて行くと大変喜ぶんですよ。そういう文化や場所が日本にはたくさんありますし、芦屋町にもたくさんあります。この日本の伝統文化、こういうのに対して外国人は憧れと、またですね、エキゾチックなイメージがあります。芦屋釜は、まさにこれにふさわしいと僕は思います。先ほど課長も説明されましたが、大手旅行会社もですね、こういう地方の生活や交流を体験できる旅行プランを品ぞろえして、外国人など、回遊を狙うと言っております。世界の観光人口はふえていっているんですよ。質の高い観光、地域の歴史や文化、温泉などの独自の観光資源をいかに有効活用するかが重要な鍵となっております。海外はですね、積極的に芦屋町もですね、情報発信して、質の高い宿泊客と観光体験を用意することで、国内外、芦屋町の観光客を呼び込めることになると思いますし、集客が安定すれば地域の雇用創出にもなると思います。

ちょっと新聞記事を紹介したいんですが。これは6月26日、西日本新聞に「寄添者芦屋振興に汗」ということで、地域おこし協力隊の活動が記事に出ていました。元カメラマンの長島さんと韓国居住経験者の沼さんが取り上げられています。この沼さんですね、4年間韓国に住んだと。現地の人と結婚してですね、その沼さんの強みは韓国での人脈。ブログやSNSで長島さんが撮ったきれいな写真を韓国で紹介すれば、訪日外国客の誘致にもつながるのではとっております。こういった人材がですね、芦屋町に来てくれておるので、これをやっぱりつなげていかないといけないと思うんですよ。

資料6をちょっと御覧ください。時間がないですね。これ日本の宿泊施設に求めるものとして

やっぱりWi-Fiなんですよ。日本文化の体験も3番目に来ていますし、言葉の問題もあります。日本料理なども食べたいし、施設外で、マリンテラス以外でも夕食が可能だったらなという事は、外国人はそういうことを考えております。九州のインバウンドはですね、今朝の日経で出ていましたが372万人来ていると。3割増なんですよ。2020年には440万の目標としていますが、700万人はいくんじゃないかといわれております。これ、思ったほど経済効果が見られない、波及効果が見られないという意見もありますが、今まではですね、大型免税店とか太宰府天満宮に行って戻ってくるとかということなんですけど。今さっき言いましたけど、コト消費に変わっているということです。インバウンドの消費額はやっぱり12万円。これからですね、これが20万円になったりすると400万人の観光客が九州に来れば、もう8,000億とかになっていくんですよ。これがですね、トヨタ九州の売り上げの1兆円とかに近づいてくるからですね、大変大きなビジネスチャンスだと思いますし、2020年には東京オリンピックもあって、19年にはラグビーの世界カップが開催されます。政府はいろいろな意味で急いでおります。

資料の8とか9とか、ちょっと御覧ください。いろいろな補助金がメニューとして出てきておりますが、例えばサッカーの世界カップなんかですね、各選手団は日本の湿気の、こういう環境に慣れるために、事前にキャンプをするんですよ。そういったキャンプを誘致するとかですね、これを指をくわえて待っていただけとかじゃあ、いけないと思うんですよ。大分の中津江村ってありましたね。あそこはサッカーの世界カップのときに、カメルーンのキャンプを誘致して、村民とですね、選手が触れ合って、本当ほほ笑ましいムードをつくって話題にもなったし、大会を盛り上げました。でですね、官のいいところと民間のいいところを組み合わせる価値をつくり出すと。官のリソースと民のノウハウでリアップする。これが本来の公共施設の指定管理のあり方ではないかと思うんですよ。行政と民間とがマッチングして、いい化学反応を起こさなければいけないんですよ。

今はこのマリンテラスの指定管理の状況を見ると、公民館とかですね、老人施設を委託で受けていたりする社協とかですね、そんな感じの状況なんですよ。あの「さぼてん」のグリーンハウスさん、いろいろな飲食店を展開しているグリーンハウスさんとは思えないような状況なんですよ。まあちょっと至らないことを言いましたが、時間がちょっと足りなくなっているんで、2分間で町長感想を。僕がちょっと、きょうは体調が悪いということで、この辺で勘弁してください。

○議長 小田 武人君

町長。

○町長 波多野茂丸君

いろいろ御提案をいただきまして、静かに拝聴させていただいておりました。田島議員さん、

平成 29 年第 1 回定例会（田島憲道議員一般質問）

北九州市との比較とかですね、いろいろされたわけですが、今この地方創生のまち・ひと・しごととはもう、いろいろな全国版で、あちこちいろいろな情報が氾濫しておるといのは、皆さん方御存知だと思います。やはり芦屋町にとりまして、今、やはり芦屋町の面積が福岡県内で 59 番目、下から 2 番目、それくらいの行政面積しかないということ。それから、交通問題が出ましたけど、JR の関係だとかですね、地に足がついて、それから芦屋らしい、その結局、まち・ひと・しごとの地方創生をやらなければならないとっております。身の丈に合った、やはり観光行政というか。今はいろいろお聞きいたしまして、やはりこのことはしなければならないな、ちょっとこれは無理かなと、いろいろ精査する場面はあろうかと思っております。いろいろ御提言をいただきましてありがとうございました。参考にさせていただきます。よろしくお願い致します。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

マリンテラスはですね、よそにない、本当この辺にはないと思いますよ。ぶどうの樹やらですね、周辺はあれがありますが、何ですか、かんぼ。そういったところと連携してですね、こういった補助金がもらえて W i - F i が整備できるというのがあるので、ちょっとそういったところも考えていただきたいと思います。よろしくお願い致します。

一般質問を終わります。

○議長 小田 武人君

以上で、田島議員の一般質問は終わりました。